

戦争の終わりを見るまでは

糸満市立高嶺中学校三年 玉城 美夢

「生き抜いて戦争の終わりを見ましよう。」

シーンと静まりかえり重い空気が漂う平和資料館にある、戦争体験者が残した証言文の中の一文だ。「なんて希望に満ちた言葉なのだろう。こんな状況でもそんな風に見えるなんて。」私は胸が熱くなった。

ある日何気なくテレビを見てみると、私の住む糸満市にある平和資料館の館長に、初めて戦後生まれの方が就任したというニュースが流れていた。考えてみると、私の身内にも、ほとんど戦争体験者はいない。戦後七十三年がたち、私を含めた戦争を知らない人がほとんどである。このニュースを一緒に見ていた母が、「今度、平和資料館にひいおばあちゃんの証言があるから、読みに行こうね」と言ってくれた。「え？、ひいおばあちゃんの証言があるの？」私は平和資料館に曾祖母の証言文があることは知らなかったため、とても驚いた。それと同時に、「平和資料館かあ。行ったことあるしなあ。」と少しめんどうだと思ふ気持ちもあった。しかし、七年前に亡くなった自分の曾祖母がどのような戦争体験をしたのか知りたいという気持ちもあったので、ゴールデンウィークを利用して母と一緒に行くことにした。

資料館の外は、色とりどりで小ささまざまなこいのぼりが真つ青な大空を悠々と泳いでいた。その下を、小さな子どもたちが遊んでいて、とても楽しそうな光景が広がっていた。資料館に入ると、光景は一変し、米軍からもらったあめ玉を赤ん坊に口移しで与えている父親の姿の写真や、米軍の攻撃を受けて体がばらばらになり、一部しか残っていない人の写真などが展示されていた。その他にも、がまの中に避難している人たちが再現しているものもあり、泣き声が聞こえないようにと、赤ん坊の口を必死に押さえる母の姿がとても衝撃的だった。

そして、先に進むと「長嶺オト」と懐かしい曾祖母の名前が書かれた証言文を見つけた。「本当にあるんだ……。」どんなことが書かれているのかどきどきしながら読み進めると、当時三十三歳、今の私の母と同じ歳の曾祖母の証言が生々しく綴られていた。特に印象的だったのは、戦争が激しくなっていく中、苦しさから自殺を図ろうとしている人に、曾祖母が「死んではいけない。生き抜いて戦争の終わりを見ましよう。」と言ったところだ。この一文を読んだとき、私はとても胸が熱くなり、手をとめて、

何度もこの一文を読み返した。曾祖母も苦しかったはずなのに、希望を持ち続け、命を大切にされた曾祖母が本当に誇らしく思えた。その後、曾祖母は、捕虜になったようだが、そこでも「みんなで生きよう。」と励ましあっていたことが記されていた。

私は曾祖母の証言文を読んで、二つのことを学んだ。一つ目は、私の命は、曾祖母が自分自身も苦しい状況にありながらも戦争がいつか終わることを信じ、平和への希望を捨てずに生き抜いてくれたからこそあるものだということだ。曾祖母が私たちが孫まで命をつないでくれたことに感謝し、曾祖母が教えてくれた「命の大切さ」を忘れないように思う。二つ目は、戦争の悲惨さ、残酷さを理解できたことである。今まで、「戦争はしたくない」という気持ちはあったものの、戦争の愚かさや残酷さを理解せず、ただ「怖い」と恐怖心だけを持っていた。しかし、資料館を訪れ、当時の様子を写真で見たり、証言文に込められた、もう聞くことのできない声に耳を傾けたりすることで、戦争の「中身」を少し知ることができたように思う。戦争を、ただ「怖い」「残酷」「悲惨」などの言葉で片付けず、しっかりと学んでいかなければいけないと思った。

資料館を訪れた一週間ほど後、私たち高嶺中学校三年生は、岡山県にある早島中学校とテレビ電話で交流する機会があった。「岡山の中学生は、どんなことを質問してくるのかな。沖縄の特産物？方言？楽しみだな。」と思っていた。実際、それらのことも質問してくれたが、その中でも最も驚いた質問は「沖縄に基地があることをどう思っていますか。」や「周りに沖縄戦を体験した人はいますか。」だった。遠く離れた岡山の中学生が、沖縄戦に関する質問をしてくるとは思ってもみなかった。生徒会代表の同級生が答えていたのだが、もし私が質問されていたら、基地問題について考えたことがほとんどないため、きっと答えることができていなかったと思う。身内に沖縄戦の体験者もいて、現に沖縄に住んでいるのに、遠く離れた県外の中学生よりも基地や沖縄戦のことについて関心が薄いことはとても恥ずかしいと思った。県外の中学生との交流によって、私は「もっとしっかり沖縄戦に関することを学びたい」という気持ちさがさらに強くなった。

「生き抜いて戦争を終わりをみましよう。」曾祖母の声は、私の胸に深く刻まれ、「沖縄戦を学びたい」という私の強い思いを支える言葉となっている。だから、この気持ちを、私は持ち続けていけるだろう。この世界から、戦争の終わりを見るまでは。